

実践事例の紹介 - 音楽科 -

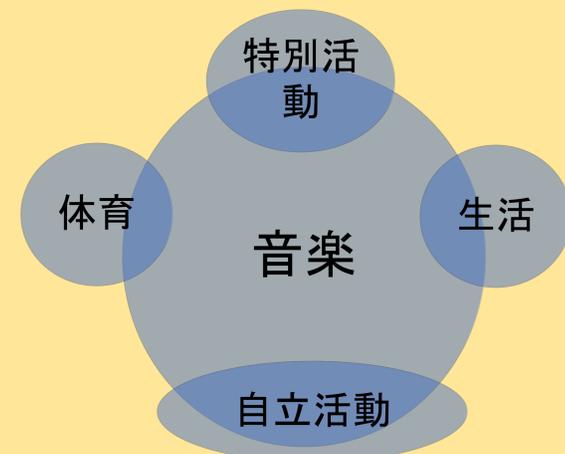
○原田薫 小笠原志乃 古江陽子

1. 小学部「音楽科」単元名「いっしょに表現しよう」

文責：小笠原志乃

(1) 単元概要	学習形態	授業時数	実施時期
(2) 指導の流れ	1・2年	11時間	9月～12月
次	1	2	3
小単元名	まっすぐいって まーがって (表現) 	おどろろハロウィンナイト (表現) 	ねずみでおどろろ (表現) 
活動内容	曲に合わせて体を動かしながら上下左右、前後など方向を覚える。個別の表現で学習し、手に物をもつことで、手や腕の方向を意識しやすくしている。	曲に合わせて表現しながら前後に動く動きの学習を継続し、友達の動きも意識できるように手をつなぎ、前に行くときには「まーえ、まーえ」と声を出すようにする。	前次までの上下左右の方向を意識した表現を発表する。大塚祭の発表につなげるため役になりきって衣装などもつけて行う。

〈他教科との関連〉



音楽的な要素を含むと体を動かしやすくなることが多いため、体の部位や方向を覚える自立活動的な活動、手を伸ばすなどの体育的活動、生活で学習している動植物に関する音楽なども関連させて学習している。特別活動での表現発表では衣装をつけて音楽に合わせた表現をすることで学級の一体感が深めることができた。

2. 中学部「音楽科」単元名「歌や身体で表現しよう(表現)」

文責：古江 陽子

(1) 単元概要	学習形態	授業時数	実施時期
(2) 指導の流れ	中学部(8人グループ)	12時間	9月～12月
次	1	2	3
小単元名	オリジナルソングを歌って レコーディングしよう(表現) 	季節の歌を歌おう～秋編～ (歌唱・鑑賞) 	歌で表現しよう ～つばさをください～(表現) 
活動内容	チョウの育ちの過程を、歌詞に盛り込んでオリジナルソングにしたものを歌唱をし、レコーディングをした。大塚祭「わたしたちのおおむし物語」の劇中歌とし、劇の創作へとつなげた。	季節に関係する楽曲を鑑賞し歌唱した。歌詞に登場した動植物は実際の様子分かる動画で観察し、情景や音のイメージを深め、調性も含めた季節感の捉え方について学習した。	語感とつながりやすい手話を取り入れ、自分の想いをのせつつ合唱をした。オーケストラ版の伴奏を作成し、曲の盛り上がりをもっと実感できるようにした。これらが大塚祭で発表をした。

〈他教科との関連〉



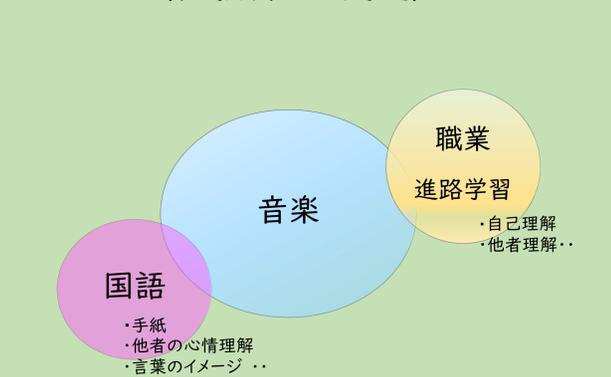
本単元の学びを活かした大塚祭(特別活動)での学習及び発表では、理科の単元「身の回りの生物」での学びを深め、後続の3学期の単元「季節と生物」へ繋ぐことができた。自己の夢や思いを絡ませて合唱をし、想いをのせて表現することで、キャリアパスポート～夢・願い～(特別活動)の学びと往還し、自己理解や自己肯定感を促進する足場がけにすることができた。

3. 高等部「音楽科」単元名「仲間と伝え合おう 表現しよう」

文責：原田 薫

(1) 単元概要	学習形態	授業時数	実施時期	
(2) 指導の流れ	全学年	10時間	11月～3月	
次	1	2	3	4
小単元名	音のキャッチボール トーンチャイムで伝えよう 	たべものリズム 手拍子リズムアンサンブル 	ボディパーカッション からだで大きく表現しよう 	相手に伝える歌をうたおう 「大切なもの」 
活動内容	相手から音を受け取り、次の人に音を鳴らして渡す活動に取り組んだ。相手の音がどんな音か、目と耳で注目すること、渡したい音を出すための鳴らし方を学習した。	ことばのリズムパターンを学習し、自分の好きな食べ物のリズムづくりをした。仲間のリズムを並べ、リズムを共有し、特徴を考えながら順番を考えてリズムアンサンブルを創作した。	リズムづくりの学習を発展させ、ボディパーカッションに取り組んだ。新しいことばのリズムパターンを取り入れ、バリエーションを増やし、深めた。	楽曲の構成を知り、歌詞の意味を考えたり、曲の好きなところや歌詞の好きなところ、伝えたいことばをそれぞれ持ちながら歌えるようにした。声を揃える呼吸(ブレス)や言葉のリズムなど、歌唱の技能にも注目できるようにした。

〈他教科との関連〉



本単元は、常時活動を通して、自身の活動に注目するだけでなく、仲間(他者)と一緒に音楽を楽しみ、共有し、演奏する機会を常時活動として入れていくことで、自分の音楽(相手に渡したい音や、歌唱における声、好きな食べ物のリズム)と相手の音楽の違いや、相手の良さに関心を持つ習慣づくりをすることができた。相手に関心を持ち、思いや伝えたいことばの自分なりのイメージを歌唱に活かし、表現することで、日々の自分や周りの人への理解が深まったり、卒業する先輩への気持ちを言葉にしたり、これからの自分への思いを深めることができた。